発行月：平成23年8月　家族新聞　第161号

環境教育「まず、今できることから」

発行所：地域環境活性化協議会
編集者：代表幹事　高橋賢一
連絡先：市民活動支援センター
尾張旭市渋川町三丁目5番地7
（渋川福祉センター内）
TEL0561-51-2878

分、私実が研究を持続している新作物

新生活習慣病に効果

平成二十三年八月四日(木)
午後二時面談

名古屋市立大学大学院
医学研究科教授
医学博士
岡嶋研二氏

新しい研究発表が九月中にも出る模様である。
左記の中日新聞の記事を確認するために教授に取材した。
長野県邪北（邪北）某老人ホームでの実績は驚くほどであった。長野県で名水（湧水）を二年半飲んでいる老人ホームの人達が、髪はふさふさ、糖尿血糖も下り、非常に健康になった。現在も元気である。

湧き水は土壌の磁気を通ってくるため、身体の活性化させる効果があり、細胞の増殖を促進させるインスリンに似たタンパク質「IGF-I」が出る。子供達にも飲ませると脳を刺激して学習能力がアップするとのこと。
それと、下に上げた三つの作物を食べれば健康と能力で最高の野菜食になる。
「湧き水は磁力があるとう。やはり地震地帯が多いというにある。

磁化水飲むと学習能力UP

名古屋市立大の岡嶋研二教授と原田真明准教授らのグループは、磁場の中を流れた水「磁化水」に、健康維持や学習能力向上効果があることを、マウスを使った研究で確認した。東北大で九月に開かれる日本生物物理学会で発表する。

名市大グループ確認

岡嶋教授によると、グループは磁化水を一カ月間与えたマウスと、通常の水を飲ませたマウス五匹ずつを分析。磁化水を飲んだマウス全身の臓器で、細胞の増殖を促進させるインスリンに似たタンパク質「IGF―I」が、通常の水を飲ませたマウスに比べて約二倍に増えていた。

さらに、学習能力に関係する脳の「海馬」でもIGF―Iが約二倍に増え、脳内にある神経細胞の再生が促されていた。グループでは、磁化水が胃を刺激して脳幹に伝わり、IGF―Iを作りだしたと推測している。

岡嶋教授らは以前から、IGF―Iが体にもたらす効果の研究を続けてきた。磁化水はこれまで経験的に健康に良いとされてきたが、一方で効果を疑問視する声もあった。各地で「名水」と呼ばれるわき水が、磁化水である可能性も高いという。同教授は「体内を活性化させる効果があり、研究が進めば、生活習慣病やうつ病などの改善につながるかもしれない」と話している。

●磁化水の効果の仕組み

健康効果も　各地「わき水」にも可能性

※ 湧き水だけでなく普通の水をインスリンに変える方法もある。

▶マコモダケ
アジアの温帯、亜熱帯を原産とする多年生の イネ科植物なので、血圧降下や腸の消化活動促進などの機能性を持つ。

▲アピオス
便秘、解消、糖尿病、高血圧、腰痛、産後の肥立ち、乳腺炎

マメ科現代人に不足するカルシウムや鉄分を多量に含み、アメリカ先住民のスタミナの源とまわれるほど栄養に富み、ジャガイモの三倍のエネルギー、骨粗しょう症や更年期障害、乳がんなどの女性疾患に対して有効といわれています。
中性脂肪やコレステロールを下げるイソフラボンが多く含まれている。

▶キワノ　正式名は日本名はツノ二ガウリ（青酸瓜）
原産地：アフリカ、ペルー、ニュージーランド、米国
カリウム、マグネシウム含量は果物中トップクラス。
歯や骨の形成やさまざまな代謝に役立っている。
高血圧予防、便秘予防、カリウムはバナナの3倍。
体内のナトリウムを排泄する。